

就職特集

—“希望の就職”をかなえるために

本年度の採用環境

第2回内定率調査まとまる

2006年度(平18)就職活動状況調査(内定率)

- ① 調査期間:2006年6月26日～6月29日(ポータルシステム) 7月3日～7月6日(電話調査)
- ② 調査対象:5月1日現在の通常在学4年次生のうち、その約1割にあたる516人(ポータル397人、電話119人)を無作為に抽出
- ③ 調査方法:ポータルシステムアンケート機能及び電話取材

学 部	調査数	回 答 数	有効回 答者数	内 定 数	内定率	進路決 定者数	決定率	上 場	上場率
経済学部	102 (20)	99 (20)	93 (19)	68 (12)	73.1 (63.2)	37 (5)	39.8 (26.3)	16 (3)	43.2 (60.0)
法 学 部	89 (28)	89 (28)	84 (27)	56 (17)	66.7 (63.0)	37 (11)	44.0 (40.7)	17 (5)	45.9 (45.5)
経営学部	75 (19)	75 (19)	72 (18)	54 (11)	75.0 (61.1)	41 (5)	56.9 (27.8)	11 (1)	26.8 (20.0)
商 学 部	105 (23)	100 (22)	91 (21)	58 (11)	63.7 (52.4)	41 (8)	45.1 (38.1)	21 (4)	51.2 (50.0)
文 学 部	81 (42)	78 (42)	71 (37)	40 (23)	56.3 (62.2)	21 (11)	29.6 (29.7)	6 (3)	28.6 (27.3)
ネットワーク 情報学部	64 (19)	64 (19)	60 (18)	35 (8)	58.3 (44.4)	24 (6)	40.0 (33.3)	12 (3)	50.0 (50.0)
合 計	516 (151)	505 (150)	471 (140)	311 (82)	66.0 (58.6)	201 (46)	42.7 (32.9)	83 (19)	41.3 (41.3)

※()内は女子内数 ※有効回答者数=回答者数-就職せず(大学院進学希望者・大学・専門学校入学希望者・資格試験受験準備等) ※自営は就職するに含む ※内定率=内定者数÷有効回答者数×100 ※決定率=進路決定者数÷有効回答者数×100 ※上場率=上場÷進路決定者数×100

昨年度好転した採用環境は、本年度も学生に追い風となっている。リクルートワークス研究所の発表した本年度(07年3月卒業予定)の大学生・大学院生を対象とする全国の民間企業求人総数は、昨年度より12・6万人増加の82・5万人となり、大幅な増加を見せた昨年をさらに大きく上回り、最も求人が多かったバブル期(91年卒)の84・0万人に次ぐ水準となった。

その背景には、団塊世代の大量退職を控え技術の伝承を急ぐ製造業の求人増があるが、不良債権処理にめどがついたことで攻勢に転じた大手都市銀行が、小口金融を強化するため1000人規模で新卒採用を行うなど、景気回復に伴う新規事業の展開や、営業力確保を目的に非製造業も高い採用意

欲を示している。この採用環境の回復は本学への求人にも表れている。5月末現在の件数は5647件であり、昨年同時期の27・7%増である。一方、各社の採用方針を見ると、昨年度より採用基準を若干下げ、量的な確保を確実なものとしようという企業も始めているが、全般的にはここ数年の「厳選採用」に変化はなく、バブル期のように、やみくもに数を埋める採用は行っていない。したがって、就労意欲が高く、明確なビジョンを持って就職活動に臨んでいる学生は、どのような企業からも評価は高く、そのような学生に内定が集中し、面接官からの質問の意図をくみ取れずコミュニケーションがうまく図れない学生や志望熱意に欠ける学生は内定をなかなか得られないという「学生の二極化」が強まっている。また、内定を複数得た学生は、志望企業以外の内定先を辞退するため、各企業は採用予定数を確保できず、中堅・中小企業を筆頭に大手企業も採用活動が長期化している。

進路決定のピーク5月に

このような中、本学学生の就職活動を5月の個別就職相談からとらえてみる。相談内容のうち、「内定」「重複内定」または「内定辞退」に関する相談が31・1%であり、進路決定の最初のピークがこの時期に来ていることがうかがえる。他方、「履歴書アドバイス」や「面接アドバイス」に関する相談は22・5%であり、必ずしも順調とは言えない学生が就職課を訪れ、就職活動に果敢に挑んでいる姿がわかる。



▲生田キャンパスで6月に行われた「学内企業説明会」

なお、現時点で内定がない場合、さらには現在の内定先に迷いがある場合は、就職課の扉をたたくことだ。就職活動は内定獲得が目的ではない。今一度、自己の会社選択基準を就職課

と共に確認してみよう。「志望企業でやりたいことは何であるか」、「なぜやりたいのか」、さらには、「将来はどのようにしたいのか」、就職課スタッフと話をすることで自分の考えがまとまってくる。



▲今年初めて生田、神田両キャンパスで実施した「就職活動バックアップ講座」。ワークシートによる自己分析や模擬面接が行われた。

また、この時期になると民間の就職サイトは終盤に向かうが、実際の採用戦線は終わっていない。本学には、連日、優良企業の採用担当者が求人票を携えて訪れており、採用活動が長期化している企業の動向を考えると、今後も求人は継続する見通しだ。これらの求人の中には、他大学にない本学独自の求人も含まれており、思わぬ情報を得ることができる。ぜひ、就職課スタッフに声をかけてほしい。

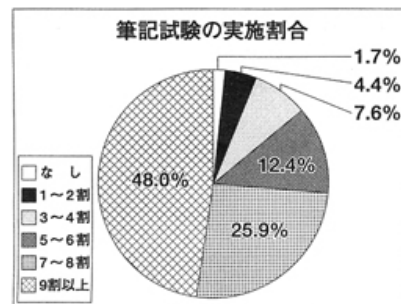
就職活動は、「自分との戦い」だ。焦らず、あきらめることなく取り組むことで必ず「希望の就職」は実現できる。

就職特集

就活直前の3年生に向けて

夏期休暇中に一歩リードを！

就職活動を終えた4年次生が決まって口にするのは、「もう少し早くから動けばよかった」という言葉だ。3年次秋になると就職活動は一気に本格化する。ぜひ、夏期休暇を有効活用して余裕のある就職活動を行ってほしい。この夏期休暇には、ズバリ次の3点を行うことだ。



【ポイント1】筆記試験対策をしよう

06年3月卒業の本学学生に行ったアンケート調査の結果によると、実に73.8%の学生が、受験した7割以上の企業において筆記試験（一般常識、時事問題、適性検査など）を経験している。これは面接重視といわれている中、筆記試験が企業の採用選考で当然に取り入れられ、この対策なくして面接へ進むことができないことを示している。

SPI試験をやってみよう！

文系学生の弱点である“非言語問題”を出題しています。

(問1)

100円と10円があわせて2,990円あり、10円玉は100円玉の3倍の枚数であった。100円玉は何枚か。次から選べ。

A 21 B 23 C 33 D 41 E 53

(問2)

4進法で33213は、5進法で表すといくつか。次から選べ。

A 12321 B 12421 C 12444 D 13422

E AからDのいずれでもない

—資料提供/株式会社ジェイ・ブロード—

なかでも、全国6400社で採用されているSPI試験は筆記試験の定番だ。内容は高校受験程度だが、限られた時間内で多くの問題を解く必要がある。就職活動が始まるとじっくりと筆記試験対策を行っている時間はない。この夏期休暇に問題集を1冊購入し、問題に慣れておくことが大切だ。例題にトライしてみよう(正解は左下)。

【ポイント2】自分の知らない業界・企業を調べよう

志望企業を考えると、日常生活を送るうえで利用している製品やサービスを提供している企業を、最初に思い浮かべることだろう。いわゆる一般消費者を顧客とした企業である。しかし、世の中には、法人を顧客とした企業も数多く存在する。このような企業は一般消費者向けに広告を行っていないため、世界的に有名な企業であっても、学生にとって知名度がない。ぜひこういう企業にも目を向けてほしい。また、理工系の学生が就職する分野の企業も調べてみるべきだ。営業や事務部門で文系学生の活躍できるフィールドが数多くある。この夏期休暇は、そのような知らない業界・企業を調べ、職業選択の幅を広げてみる絶好の機会だ。

【ポイント3】自分を語る素材を作ろう

就職活動を始めると、自分自身に何もアピールする素材がないという学生がいる。もし、そのように思うのなら、その素材を作ってみよう。例えばアルバイト。アルバイトは、自由に使えるお金を得るために行うことが多いと思う。しかし、この夏期休暇は少し視点を変えてみるといい。アルバイト先の企業はどのように利益を上げているのか、アルバイト先と取引をしている企業にはどのようなところがあり、どのように関連しているか、また、アルバイトを使う立場にある正社員の仕事内容や、やりがいはどこにあるのかインタビューしてみてもいい。調べたことをレポートとしてまとめると業界・企業研究にもなり一石二鳥だ。

正解 = (問1) B (問2) C

就職特集

就職率 前年を上回る 94.0% —就職希望率も上がる

05年(平17)3月卒業生就職状況

06年3月卒業生の就職状況がまとまった。就職希望者に対する全体の就職率は94.7%で、女子では95.4%となった。前年度比では全体で0.7%の増加となり、3年連続で前年度の就職率を上回った(表1、2)。卒業生に対する全体の就職率も2年連続上昇の69.1%となり、6.7%の大幅な増加となった。就職課では景気回復による新卒採用の増加が大きな要因と分析している。



▲生田就職課は資料室をリニューアル。より相談しやすい雰囲気に

統計資料の分析

就職希望率

昨年度から上昇に転じた就職希望率は、前年度比6.6%増加の73.0%となり、8年ぶりに70%台に回復した(表1)。

学部別就職率

経営学部が最も高く(96.0%)、女子では経済学部が最も高い(97.6%)。全体の就職率上昇に伴い、学部間格差が縮小している(表2)。

求人申込件数

前年度比14.2%上昇の6614件となった(表3)。ほぼすべての業種で増加しており、企業の活発な採用意欲が本学への求人にも現れている。これらの情報は就職支援システム「S-net」により、タイムリーに公開・提供している。

内定者数

就職率の上昇に伴い、複数企業から内定を得た学生も前年度比3.5%上昇の53.7%となった。また、3社以上の企業から内定を得た学生が全体の4分の1を占めている(グラフ2)

採用環境の特徴

05年度就職採用環境の全体の特徴をまとめてみた。

人員確保を目指すも 質確保の姿勢崩さず

1 バブル期しのぐ採用計画

日本経済新聞社がまとめた「06年度の新卒採用計画調査」(05年4月)は、主要企業の新規大卒の採用予定数は前年度実績比23.9%増と2年連続で20%台の増加を報じた。これは26年ぶりの高さとなり、バブル期をしのぐ伸びとなった。企業業績の回復、過去の採用抑制による年齢構成の是正、競争力強化のためのコア人材の確保、経験者採用でのコア人材確保の難しさなどが要因として挙げられる。

2 厳選採用に変化なし

〈表1〉過去3年間の就職状況

	05年度	04年度	03年度
卒業生数	4,071人	3,932人	3,911人
就職希望者数	2,970人	2,610人	2,568人
就職希望率	73.0%	66.4%	65.7%
就職者数	2,814人	2,453人	2,368人
就職率	94.7%	94.0%	92.2%

量的な人員確保を目指す一方、質の確保の姿勢を崩すことはなく、採用予定数に対する充足率が100%であった企業は526%（充足率90%を加えても756%＝日本経団連調査＝）であった。質を重視する厳選採用の姿勢に変化はない。

3 通年採用など多彩な形態が定着

春期一括採用が主流であるものの通年採用や秋採用など、多様な人材を発掘するための特徴ある採用形態の導入が定着の傾向を見せている。これに伴い、就職活動の長期化、学生の最終意思決定の先延ばし傾向、秋期以降の内定辞退などの新たな問題も生じ始めた。

4 「コミュニケーション能力」最重視

企業が採用選考時に重視する要素の第1位は、3年連続「コミュニケーション能力」（日本経団連調査による）であった。さまざまな顧客と意思疎通を図る力を企業は最も求めている。しかし、この能力に対する採用担当者の学生評価は高いものではなく、期待される能力と現実とのギャップが存在する。

異世代と交流する機会が少ない学生にとって、「コミュニケーション能力」向上は大きな課題といえる。

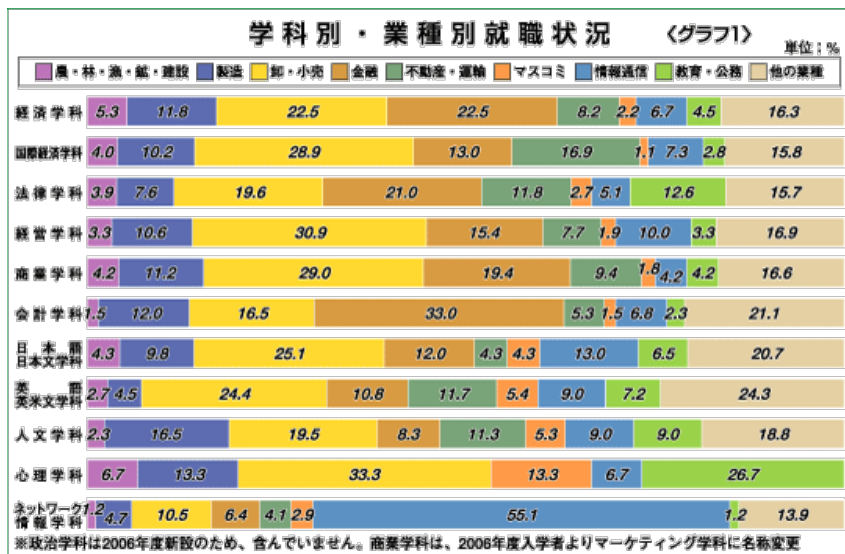
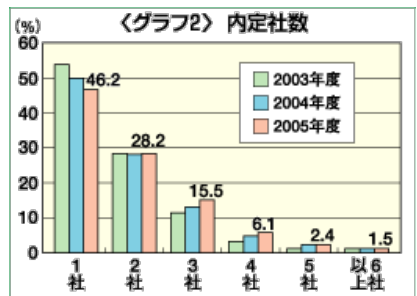
〈表2〉学部別就職率 単位：%

	05年度		04年度		03年度	
	全体	女子	全体	女子	全体	女子
経済学部	95.9	97.6	94.7	95.6	92.5	96.4
法学部	93.8	93.4	92.3	92.6	92.0	91.6
経営学部	96.0	97.3	97.4	98.4	92.5	93.3
商学部	93.8	94.1	92.6	92.4	93.8	93.4
文学部	93.9	95.4	92.5	93.0	88.8	89.5
ネットワーク情報学部	95.6	96.9	95.1	94.5		
全学	94.7	95.4	94.0	94.1	92.2	92.6

〈表3〉求人申込件数 単位：社

	05年度	04年度	03年度
農・林・漁・鉱・建設業	300	246	216
製造業	1,205	1,028	937
卸・小売業	1,581	1,451	1,411
金融業	373	340	313
不動産・運輸業	477	411	362
マスコミ	324	325	269
情報通信業	944	804	716
教育	172	157	128
その他の業種	1,238	1,031	919
計	6,614	5,799	5,271

※その他の業種には、電気・ガス・水道・熱供給事業、飲食店・宿泊業、医療・福祉業、各種サービス業を含む。



就職特集

就職率 前年を上回る 94.0% — 就職希望率も上がる

05年(平17)3月卒業生就職状況

【経済学部】

積水ハウス／大和ハウス工業／山崎製パン／クリナップ／武田薬品工業／資生堂／コスモ石油／小松製作所／日本電気／富士通／スズキ／ヤマハ発動機／三越／みずほ銀行／三井住友銀行／横浜銀行／大和証券／日本生命保険／損害保険ジャパン／東日本旅客鉄道／日本通運／エヌ・ティ・ティ・データ／日本郵政公社／雇用・能力開発機構／警視庁

【法学部】

松下電工／日立製作所／スズキ／みずほ銀行／中央三井信託銀行／東京都民銀行／千葉興業銀行／野村證券／日本生命保険／日本興亜損害保険／東日本旅客鉄道／西日本旅客鉄道／東京地下鉄／日本航空インターナショナル／電通／朝日新聞社／西日本電信電話／日本音楽著作権協会／国家公務員2種／法務教官／裁判所事務官2種／最高裁判所(司法修習生)／東京都庁1類／東京都特別区1類／警視庁

【経営学部】

キリンビバレッジ／不二家／明治乳業／森永乳業／ヤクルト本社／中外製薬／アドバンテスト／東芝テック／三菱電機／テルモ／堀場製作所／日本ロレアル／そごう／イトーヨーカ堂／セブン-イレブン・ジャパン／みずほ銀行／三菱東京UFJ銀行／大和証券／日興コーディアル証券／第一生命保険／エイチ・アイ・エス／ジェイティービー／KDDI／リクルート／国家公務員2種

【商学部】

アサヒビール／キューピー／ニチレイ／クリナップ／タカラスタンダード／資生堂／花王／日野自動車／ヨネックス／ワールド／菱食／トーハン／セブン-イレブン・ジャパン／みずほ銀行／三井住友銀行／横浜銀行／野村證券／日本生命保険／三井住友海上火災保険／京成電鉄／東日本旅客鉄道／九州電力／中央青山監査法人／国税専門官／警視庁

【文学部】

積水ハウス／キッセイ薬品工業／テルモ／ゴールドウイン／サンリオ／セブン-イレブン・ジャパン／三省堂書店／みずほ銀行／中央労働金庫／第一生命保険／明治安田生命保険／東日本旅客鉄道／ジェイティービー／福島県教育委員会(中学英語教員)／ジュピターテレコム／リクルートHRマーケティング／日刊自動車新聞社／集英社／東北新社／プリンスホテル／ロイヤルパークホテル／ナムコ／あずさ監査法人／ジャルスカイサービス／警視庁

【ネットワーク情報学部】

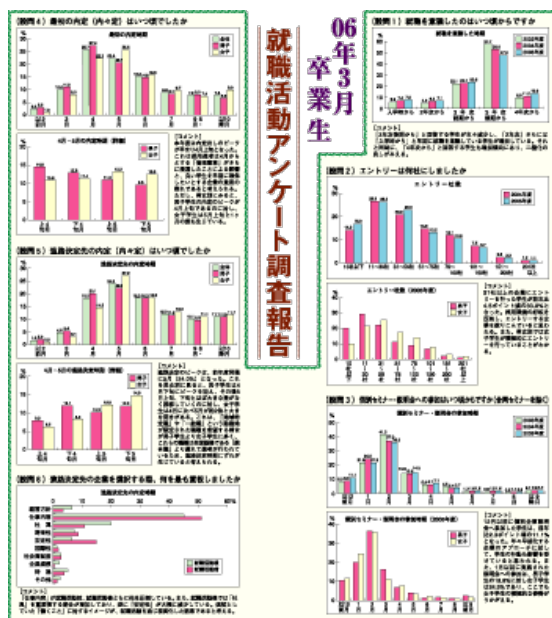
積水ハウス／ロッテ／シャープ／東芝テック／富士通デバイス／トレンドマイクロ／ニッセン／第四銀行／共栄火災海上保険／東日本旅客鉄道／インターネットイニシアティブ／エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ／ソニーコミュニケーションネットワーク／NEC情報システムズ／NECソフト／ジェイアール東日本情報システム／第一生命情報システム／日立情報システムズ／日立造船情報システム／日立ソフトウェアエンジニアリング／ビデオリサーチ／富士通エフ・アイ・ピー／富士通ビジネスシステム／ヤフー／栃木県教育委員会(事務職員)

就職特集

06年3月卒業生

就職活動アンケート調査報告

2008年3月卒業予定者対象の民間就職サイトが6月に入りプレオープンし、3年次生の就職戦線も徐々に始まり出した。決してあわてる必要はないが、大まかな流れを押さえておくことで就職活動に対する不安は解消される。就職課では、毎年、民間企業に進路を決定した学生にアンケート調査を実施しており、本学学生の就職活動状況を検証している。「自分らしい就職活動」を行う参考資料として活用してほしい。(民間企業就職者数2815人、回答者数1974人、回答率70・1%)



就職特集

WAKUWAKUときめき専修21

Brush UP セミナール 挑戦することで成長できる—実感

「気楽にまじめな話をする」をコンセプトに「社会」「働く」といったテーマをディスカッションとプレゼンテーションによって考え、理解していく就職課主催のWAKUWAKUときめき専修21「Brush UPゼミナール」が4月から10回にわたって行われた。7月4日の最終回では全員が感想を述べ、互いの成長を確認しあった。

今回の課題は「専修大学の魅力検証とキャッチフレーズづくり」、就職試験のグループディスカッションのテーマとしてもよく出題される「当事者になったつもりで考えよう—【外食産業の競合激化時代に勝ち抜くための戦略】などの複数テーマから選択」など。各班1週目にディスカッション、2週目に10分間のプレゼンを行い、「ものの見方・考え方」を養ってきた。

緊張するタイプだったという1年次生は「入学後、何をしたいのかわからなかったが、さまざまな学部・学年の先輩から話を聞くことで、いいスタートを切ることができた」。別の1年次生は、「発表するのは得意だと思っていたが、いまの自分の限界が分かった。課題が見つかり、学生生活の目標ができた」と参加した効果話した。3年次生からは「『たかもの』と考えていた討論のイメージが変わった。意見が積み重なっていき、答えを引き出すというプロセスを学べた」「漠然としていた『視野を広げる』という意味が分かった」との感想が聞かれた。

講師のわくわくヒューマンカンパニー・芝原脩次氏は、まとめとして「社会は『夢と志』を実現する場だ。そのために必要な『力』を大学4年間で身につけ、卒業時の偏差値を上げよう。企業では出身大学ではなく、『何を学んだか』が問われる。一年一年目標を設定し、熱く語れる引き出しをたくさん持とう」とエールを送った。

「苦手なプレゼンを克服したかった」「『WAKUWAKU…』というタイトルにひかれて」と参加した動機はさまざまなメンバーたち。「興味をもったことに挑戦することで、成長できることがわかった」という感想が、このゼミの最大の特徴を表している。



▲最終日に感想を述べ、互いの成長を確認



▲グループごとに工夫を凝らしたプレゼンテーション

就職特集

私の「シュウカツ」体験記

「就活(シュウカツ)」ってどう始まるの? 何から準備すれば? 分からないこと、不安なことがたくさんあるでしょう。今年も「希望の就職」をかなえた6人の4年次生に体験談と後輩の皆さんへのメッセージを寄せてもらいました。独自の方法で一歩リードした人、学生生活でチャレンジし続け、「引き出し」をたくさん作った人、挫折から立ち直る方法…。疑問を解消する「ヒント」がこのページにあります。



イラスト/渡辺正義

◆小城原 佳亮さん

経済学科、水谷弘ゼミ(3年次) = 近畿日本
ツーリスト=

力入れた企業研究が自信に

最も力を入れたことは面接対策です。特に企業研究に時間を費やしました。以前、就職課で模擬面接をした時、どんどん突っ込まれ、ほとんど答えることができませんでした。原因は企業研究の不十分さです。ある程度本も読んだし、企業研究はこれくらいで十分という気持ちがあったのです。単にイメージで旅行業界を選んでおり、各企業のことをまったく理解できていないことを痛感しました。悔しかったので、改めて企業研究に取り組みました。まずは各社のホームページをすべて読み、その会社の規模や経営計画、仕事内容を勉強しました。また旅行業協会に開示している各社の売上高表から売り上げの伸び率や国内、海外のどちらに強いかなどを勉強しました。

店舗訪問もして、職場の雰囲気やお客様への対応を見て、仕事内容やこういった層のお客様が多いのかなどを質問しました。これにより、各社の違いを知ることができ、いままで漠然としていた志望動機が明確なものになりました。面接本番ではいままで勉強したことを基に、自信を持って返答できました。いま思うと、この徹底した企業研究が内定のポイントの一つだと思います。就職活動は、自分が動けば動くほど、志望動機などが洗練され、その真剣さは面接で伝わるのだと思います。納得できるまで、悔いの残らないようがんばってください。

◆永野 貴士さん

法律学科、松岡啓祐ゼミ = 第一勧業アセットマネジメント=

まずは自分の「人間性」知る

就職活動は「自分を知る」と同義であったと思います。志望業界は金融と決め、知識についてもある程度自信がありました。しかし、どうしたら希望する業界に入ることが出来るかについては、全く分からない。当初はこのような状態でした。分からないままで初めてのエントリーシート(ES)を仕上げたものの結果は「落選」。

ここで、確かにどう志望業界に入るかについて全く分かっていないが、それは具体的に何を分かっていないのかと考えました。ESを見直してみると、問われているものの多くは知識や志望企業のことではなく、自分の人間性や経験についてでした。それまで自己分析を一切してこなかった私にとって、今分からないこと

は「自分の人間性について」であると気付きました。

そこから自己分析を始めた訳ですが、そこでは、自分の経験をまとめる「主体的なもの」周りの方達と話すことで頂いた「客観的なもの」を組み合わせ、自分の人間性を掴んでいきました。振り返ってみると、自分の人間性を掴むことは就職活動の上で、大切なことと思います。なぜなら自分の人間性を掴み、出来ること、出来ないことを把握していれば、ES・面接など自分を表現する場で自信を持って臨めると共に、自信のないところについては、対策を立て応じることが出来ると思うからです。

知識やテクニックは、活動過程の中で必ず身につくと思います。まずは、自身の人間性・やりたいことを見きわめることを、就職活動の「取っ掛かり」として取り組んでみてはどうでしょうか。

◆徳武 杏実さん

経営学科、竹村憲郎ゼミ =アストラゼネカ=

徹底自己分析が信念を生む

“一発目”から第一志望。無謀とも思える私の就職活動が成功したのは「必ずMR(医療情報担当者)になるんだ」という信念と徹底した自己分析があったからこそと思います。

外資系製薬企業に的を絞って活動、選考開始が1月からとかなり早かったため、その時期に合わせて対策を立てる必要がありました。昨年10月に就職課の講座に参加したことから始まった就職活動。とりあえず業界研究から始めたものの、自分のことは12月に入っても手付かずの状態でした。そんな時、何気なく訪ねた就職課で模擬面接をしていただくことになりましたが、結果には愕然。自己PRすら満足にできなかったのです。「だから早く自己分析をしろ」と言っているんですよ」と言われ、自身の就活に対する意識の甘さを再認識させられました。それからはいつもノートを持ち歩き、思い出したこと、気づいたことなどを細かくメモを取るようになりました。さらに「なぜそう思ったのだろう?」「なぜそのような行動を取ったのだろう?」と、常に自らへの問いかけを心がけました。おかげで思わぬ自分の行動パターンを発見することができ、志望動機や自己PRをより完成度の高いものに仕上げることができたと思います。

就活に大切なのは、まず自分自身と正面から向き合うことだと思います。そして「ありのままの自分」という最大の武器を持って、最高の結果を手にしてください

◆小野沢 雅之さん

商業学科、渡辺達朗ゼミ =明治製菓=

「はじめの一步」をより早く

実家は江戸時代から続く酒屋。卒業後少しでも早く両親の力になろうと、マーケティングを学んでいます。就職活動を始めたのは、3年次の夏休み。成人式以来となるスーツを着て、旅行会社のインターンシップに参加しました。思い返してみると、周りよりも「はじめの一步」を早く踏み出したのが良かったと思います。

その後、食品の「売り場提案」をテーマに、本格的な就活をスタートさせました。まず会社を知るために、スーパーの食品売り場で、好きな商品の会社名をチェックすることから始め、エントリーに進みました。食品メーカー、卸売り、売り場提案ができる業界も見ましたが、本当に好きな商品を売りたいという強い思いから食品メーカーを中心に回りました。持ち前の行動力を生かし、工場や店舗の見学、先輩訪問、会社研究と計画的に動き、多くの方と会って話を聞きました。時間やお金はかかりましたが、先輩方から刺激を受け、あこがれる方が何人もいました。そんな先輩に近づくため、SPI講座に出たり、面接時に胸ポケットにICレコーダーを入れ自分の面接を分析したりと地道な努力を重ねました。

就職活動は自分を試し成長させるチャンス。選考にもれ、落ち込んだこともありましたが、両親、友人、ゼミの先生が親身になってアドバイスしてくれました。自分にうそをつかず、やってきたことに自信を持って臨んでください。

◆石原 伶奈さん

英語英米文学科、ウィリアムL・ボレッタゼミ =テレビ東京=

テニス、留学……常に挑戦

「東京に出て、テレビ局で働く」のが子供のころからの夢でした。そのために特別にしてきたことは何もありません。唯一言えることは、大学生活はチャレンジの毎日だったことです。

テニス部に所属し、放課後と休日は、毎日練習に励みました。「英語が話せる選手」になりたいと英語と格闘しました。遠征先から授業のレポートを受け取っていただいた先生方、放課後遅くまで勉強につきあってくれた友達など本当に多くの人に支えられました。

2年次に念願の春期留学プログラムでワイカト大学に留学。3年次にはTOEICや秘書検定、英検などに挑戦し資格を取得。部活のあとに家庭教師のアルバイトを続け、オフの日には思いっきり遊びました。

成功や失敗、困難や努力……。 「就活」で質問されたことは、すべて今までの実生活にありました。面接では正解を用意せず、自分の言葉で自分の考えを話しました。内定先の会社は、いつも真摯に向かい合っ
て話を聞いてくださり、選考が進む度にこの会社に入りたいという思いが強くなりました。最終面接で局の改善点を質問された際、社長が私のアイデアを丁寧に聞いてくださった姿が印象的です。

「就活」はスーツを着てからスタートするのではなく、それ以前の日常から始まるのだと思います。専大には勉強やスポーツ、留学など多くのことに挑戦できる環境があります。後輩の皆さん、挑戦とそこから生まれる出会いを大切に、そして時間を大切にしてください。一つひとつの小さな経験が最大の武器になるはず
です。

◆石黒 由佳さん

ネットワーク情報学科、本江渉プロジェクト =エヌ・ティ・ティ・データ=

自分という人間を信じよう

漠然と就職活動に不安を感じていた私は、昨年の夏に某メーカーのインターンシップに参加。将来何になりたいか分からないからこそ、いろいろな業種・企業を見てみたいと思っていたので、インターンシップはと
ても良い経験になりました。

就職活動を本格的に始めたのは12月で、さまざまな企業の説明会に参加しました。活動していると自然に自分自身のやりたいこと、妥協できないこと、会社選びの基準が分かってきました。そして、私が最も引かれたのがエヌ・ティ・ティ・データです。大企業だけに高望みし過ぎではないかと考えもしましたが、新卒就職活動は一般のテストとは違い、学歴、経験問わずいろいろな可能性に挑戦できる良い機会だと考え、自分
を信じて挑戦しました。

同社を第一志望に決めた時、同じ業界の筆記試験や面接を何社か受け、先に経験を積むことにしました。自分なりに努力してきた集大成を第一志望にぶつけようと考えたのです。事前に傾向や対策を考え、選考を受けた結果、筆記試験も突破し、面接も自然体で臨むことができました。就職活動は、自分という人間に自信を持つことがカギだと思います。自分を理解し、信頼し、良いところを「ほめる」ことが大切だと思います。そして、その自信と働きたいという熱意を伝えることができるならば、入社したい企業に認めてもらえるはず
です。この就職活動を通して、多くの人に励まされ、支えていただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。